

8月17~18日
茨城で宿泊学習



海と日本プロジェクト in 栃木県実行委員会・とちぎテレビ主催の「海と日本プロジェクト サガンボ恩返し隊 2018 ~海へとつながる栃木の暮らし」が8月17、18日の1泊2日の日程で実施され、県内の小学5、6年生20人が参加しました。ゲストの宇都宮ブリッツェンGM 廣瀬佳正さん、那須ブルーゼン社長若杉厚仁さんと共に、茨城県鉾田市にあるとちぎ海浜自然の家などでの宿泊体験学習を通して小学生たちは「サガンボ」(サメの切り身)の故郷の海について学び、海を楽しみ、海と自分たちとのつながりを考えるなど爽りの多い2日間となりました。

県内小学生20人が体験

サガンボから栃木と海のつながりを調査するため、最初に栃木県立博物館で篠崎茂雄学芸部長補佐のお話を聞きました。海の魚サガ

ンボはどちそうだったこと、内陸地域の特徴ある食べ物だったこと、何百~何千年とかけて伝えられてきた料理だったことを学びま

この夏... 海を感じた、考えた

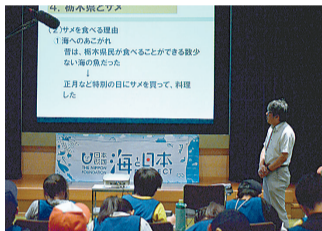


さんから「サガンボは皮が硬くさばくのに手間がかかるため地元では歓迎されない魚だったが、車に積んで那須塩原まで売りに行った」などと、海とのつながりを感じるような話を聞きました。また、茨城県水産試験場の渡邊直樹さんが茨城の海と漁業をテーマにレクチャー。小学生たちは身近な海について

トボトルやプラスチックなどさまざまな漂着ごみの多さに小学生たちは驚いた様子。環境問題になっている「マイクロプラスチック」も拾い集め、今自分たちにできることは何かを考えました。午後は大洗サンビーチでのサーフィン教室に参加し、海を満喫しました。

プロジェクトの最後を締めくくる活動記事作成・報告会では、報告書を兼ねた壁新聞作りに取り組みました。小学生たちは2日間の体験を思い出しながら、熱心に書き留めたメモ帳や資料を参考に学んだこと、伝えたい思いを文章や絵で表現しました。報告会では出来上がった壁新聞を前に、「海と栃木県の関係が良く分かった」「海が汚れていることを知って、きれいにならなければならない」となど全員がそれぞれ感想を発表しました。

続いて向かった那珂湊港では、那珂湊漁業協同組合女性部の皆さんが腕を振ったカツオの刺し身やたこ飯、那珂湊焼きそばなど漁師飯をいただき、初めて味わう海の幸に笑顔がこぼれました。昼食後、同組合代表理事組合長の大内清一



「壁新聞」を作り 報告会

海とつながる栃木
サメを食べる「地獄」
①海産物... ②三重県 貴船県
③海が汚れている... ④干す
⑤刺し身
⑥魚の骨を捨てる

サガンボについて
① 栃木県民としての「サガンボ」
② サガンボを食べる時期
③ サガンボの道

サガンボ海とつながる
八月十八日大洗の海...
サガンボは海とつながる...

サガンボについて
① 栃木県は海が近い
② サガンボは海産物
③ サガンボはサメの切り身
④ サガンボは海産物
⑤ サガンボは海産物

サガンボ海とつながる
サガンボは海とつながる...
サガンボは海産物...

栃木サガンボ新聞 2班

海とつながる栃木
サメを食べる「地獄」
①海産物... ②三重県 貴船県
③海が汚れている... ④干す
⑤刺し身
⑥魚の骨を捨てる

ゴミを流すな!!
宇田川空汰くん (本郷北小5年)
新しく作られたゴミ箱...
ゴミを流すのは良くない...

栃木県の昔
栃木県は、かつては海川あふれていた。栃木県民は海川を愛していた。
① さしみ
② 干す
③ 刺し身
④ 魚の骨を捨てる

サメは海を汚す
安藤愁人くん (清原中央小6年)
サメは海を汚す...
サメは海を汚す...

サガンボの道
松永黎くん (桜小6年)
サガンボの道...
サガンボの道...

高田智大くん (緑が丘小5年) 岩崎さくらさん (下原小6年) 吉田太洋くん (御幸小5年) 手塚ゆなさん (下原小6年) 高山人知くん (壬生東小5年)

石川みか莉さん (国府北小5年) 大林柚月さん (安塚小5年) 松永黎くん (桜小6年)